

ラーニングテクノロジー開発室

ニュースレター

ラーニングテクノロジー開発アシスタント (LTA) 募集!

2003年の帝京大学ラーニングテクノロジー(LT)開発室発足以来、理工学部において、ラーニングテクノロジーアシスタント制度を運用しています。これは、教員の教育活動を支援する学生補助員の制度です。具体的には、教員への支援などのLT開発室の業務を行う学生補助員を募集し、人材登録をしておき、作業のニーズが生じた際に、登録されている補助員に作業を行ってもらいます。このような学生補助員をラーニングテクノロジー開発アシスタント、通称、LTAと呼んでいます。LTAには学長名で辞令が交付され、作業に応じて給与が支給されます。

LTAたちは、これまでに、講義を録画・エンコードし、動画配信システムに載せる作業、手書きの講義ノートをパワーポイントに入力する作業、教員が作成した小テストをWebCTに入力する作業等を行ってきました。また、教員と協同でメディア教材を作成した事例もあります。さらに、通常はティーチングアシスタントを置かない講義授業の何回かをCL教室において実施する場合等に、直接、授業の補助をするケースもあります。このように、LTAは授業に

おける教員と学生の活動を一般的なティーチングアシスタントよりも幅広くサポートしています。そして、何人もの先生方がこの制度を有効活用されています。このような支援をご希望される先生方は、ぜひLT開発室にご連絡ください。

ところで、最近、LT開発室の支援業務のニーズが高まっており、LTAが不足気味です。LTAたちにとっても、本来の学業が重要ですから、一人ひとりのLTAに大きな負担を掛けるわけにはいきません。そこで、新年度に向けてLTAを増募したいと考えています。先生方の周りでLTAにふさわしい学生がいましたら、ぜひご推薦ください。また、このような活動に興味がある学生諸君は、2月7日に開催するLTAミーティングに参加してみてください。LTAミーティングの詳細はLT開発室ウェブサイトを参照してください。

LTAによる支援の申込・LTAの推薦・その他お問い合わせは以下までご連絡ください。

電子メール LT-Support@LT-Lab.teikyo-u.ac.jp
電話 028-627-7243

NEWS

◆ 2月のLTセミナー

2月のセミナーは以下のテーマで開催を予定しています。詳細はポスターやLT開発室のウェブサイトをご覧ください。

☆2月のLTセミナー

「自己学習力をつける授業

—これまでの取り組みと成果—

2/27(火) 13:20～14:50 本部棟2号館2F 201室

◆ 平成18年度 情報教育研究集会 報告

平成18年度情報教育研究集会が、2006年11月24～25日に広島大学にて開催されました。3件の招待講演、1件のパネルディスカッションと245件の一般講演があり、本学からは、武井恵雄教授と渡辺博芳助教授が発表を行いました。

◆ 平成18年度 大学教育改革プログラム

合同フォーラム 報告

平成18年度大学教育改革プログラム合同フォーラムが、特色ある大学教育支援プログラム(特色GP)、現代的教育ニーズ支援プログラム(現代GP)など9つの大学教育改革の支援事業の参加により、2006年11月12～13日にパシフィコ横浜で開催されました。

◆ 情報処理学会 第4回CMS研究会 報告

情報処理学会教育学習支援情報システム研究グループの第4回研究会(CMS研究会)が2006年12月17～18日に熊本大学において開催されました。

◆ 情報処理学会 第86回 CE研究会 報告

情報処理学会コンピュータと教育研究会(CE研究会)の第86回研究会が2006年10月21日に香川大学において開催され、本学からは、古川文人助手が発表を行いました。

上記4件についての詳しい報告はLT開発室のウェブサイトをご覧ください。

◆ LTコンサルテーション 受付中

LT開発室では、みなさまからの授業設計や運営などに関するコンサルテーションを、随時、受け付けています。授業設計・教材作成、授業でのLT活用方法やLTAによる教材作成の支援についてなど、何かありましたらお気軽にご相談ください。

○コンサルテーションお申し込み先

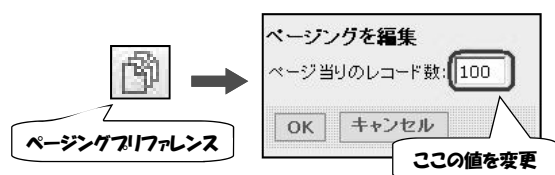
Mail: LT-Support@LT-Lab.teikyo-u.ac.jp
TEL: 028-627-7243

WebCT Tips

～1ページあたりの表示数を増やすには？～

ファイル管理やグレードブックで、ファイル数や登録学生が多くページの切り替えが面倒だと感じたことはありませんか？初期設定では1ページあたりの表示数が「10」に設定されているため、数が多くなってくると、こまめにページを切り替えなければなりません。そのようなときは、1ページあたりの表示数を変更することで、見やすく、使いやすくなります。

1ページあたりの表示数はWebCT画面の右下にある「ページングプリファレンス(以下のアイコン)」から変更できます。ぜひお試しください。



～グレードブック活用方法～

ーデータのインポート・エクスポートー

WebCTで行った小テストや、課題の点数など、グレードブックの情報は、テキストファイル(Excelなどで読み込める形式)に書き出すことができます。また、テキストファイルから、データを読み込んで、WebCTに掲載することもできます。複数人の情報を更新したい場合は、WebCT上でデータを入力するより、Excelなどでファイルを作り、取り込む方法が便利です。

WebCTへのファイルの取り込み、または書き出しは、グレードブックの中にある「スプレッドシートからインポート」「スプレッドシートからエクスポート」から行えます。

取り込む場合には、先にカンマ区切りのファイルを用意する必要がありますのでご注意ください。

WebCT活用授業レポート

課題提出機能を使った学生とのインタラクション

今回は、理工学部の橋本敬三先生にお話をうかがいました。

LT どのように使われているのでしょうか。

橋本先生 「数値計算法」という科目で、普通教室とCL教室を交互に使うような形で授業をしています。CL教室では演習をしていますが、時間内に終わらなかった分は各自が持ち帰って解き、それをWebCTの課題提出機能を使って出してもらっています。現在は、課題をだいたい10パターンつくっていて、同じ課題を解いているのは2人から3人くらいというところです。

提出状況は、ほぼ100%で、自宅から提出している学生が多いようです。課題には1週間の期限を設けていますが、ぎりぎりに家から提出する人もいて、ほとんど全員が期限を守って出しています。

LT 課題の提出がどこからでもできるというのは、学生にとっての利点の一つですね。WebCTを使われる前と比べていかがでしょうか。

橋本先生 最初は紙のプリントを使っていました

が、その頃より出来が良くなったと感じています。

自ら考察を書く学生もいますし、課題を丁寧にやるようになりました。提出のスタイルも良くなっています。一つには、提出された課題に対して間違いを指摘して返していることがあると思います。それをまた提出させるといった双方向のやり取りの末、最終的には全員に正しい答案を出してもらうこととなります。これらのやり取りを通して学生の向上心が上がったと思います。

LT 学生全員にプリントを戻すのは手間がかかることと思いますが、WebCTでは課題の返却が簡単にできる点を活用されていらっしゃるんですね。

橋本先生 それから、学生ごとに問題を変えて出題することが簡単にできるせいか、学生がレポートを写してくるといったことが減りました。採点もしやすいし、コピーも見つけやすいです。理想としては、ひとりひとり違う問題を出したいと考えています。力がつくようになりますからね。

LT どうもありがとうございました。

編集後記 今年の初めには、色々な方から風邪を引いたという話をよく耳にいたしました。みなさまはいかがお過ごしでしょうか。私も年明け早々、喉をやられてしまいました。年度末に向けて忙しくなるこの時期、みなさまも体調にはお気をつけください。本年もよろしくお願いたします。(及川)



ラーニングテクノロジー開発室連絡先 <http://www.LT-Lab.teikyo-u.ac.jp/>

宇都宮キャンパス本部棟2号館2F 202室 028-627-7243 (直通)

◇室員：武井 恵雄(室長)、渡辺 博芳、古川 文人、高井 久美子、及川 芳恵

◇一般的なお問合せ：LT-Staff@LT-Lab.teikyo-u.ac.jp

◇技術的なサポート：LT-Support@LT-Lab.teikyo-u.ac.jp

